



曲(巖原町)の盆踊



阿連(巖原町)の盆踊

伝統と知り、後世へ

全国各地の芸能を取り入れ独自の発展をみせた対馬の盆踊は、このたび、対馬市初となる国指定重要無形民俗文化財に指定されました。この盆踊は、50年ほど前までは島内各地で踊られていたことを皆さんはご存じですか？盆踊が対馬の人たちに与えてきた影響や次世代につないでいく取り組みなどをご紹介します。



吉田(峰町)の盆踊



五根緒(上対馬町)の盆踊



三根上里(峰町)の盆踊

対馬の盆踊の始まりは？

対馬に伝わった盆踊は、宗家の先祖を供養するため、家臣団によって踊られるようになります。大名行列をイメージする「御卵塔風流」と、特別な許可を得て商売を行っている「六十人衆」という人たちの子弟が踊った「六十人踊り」の二種類の踊りです。



御卵塔風流の行列図(「対馬の盆踊」調査報告書より)

対馬の人たちが育て残した「盆踊」

城下町で踊られていた二種類の踊りは、その後対馬各地へと広がっていきます。約300年前の記録に、島内各地で踊られていたとあり、島の人たちの中に盆踊が浸透していたことがわかっています。また、日本各地で当時流行していた踊りが取り入れられたほか、歌舞伎や狂言など、様々な芸能の影響を受けた演目が構成されるなど、独自の進化を遂げていきました。

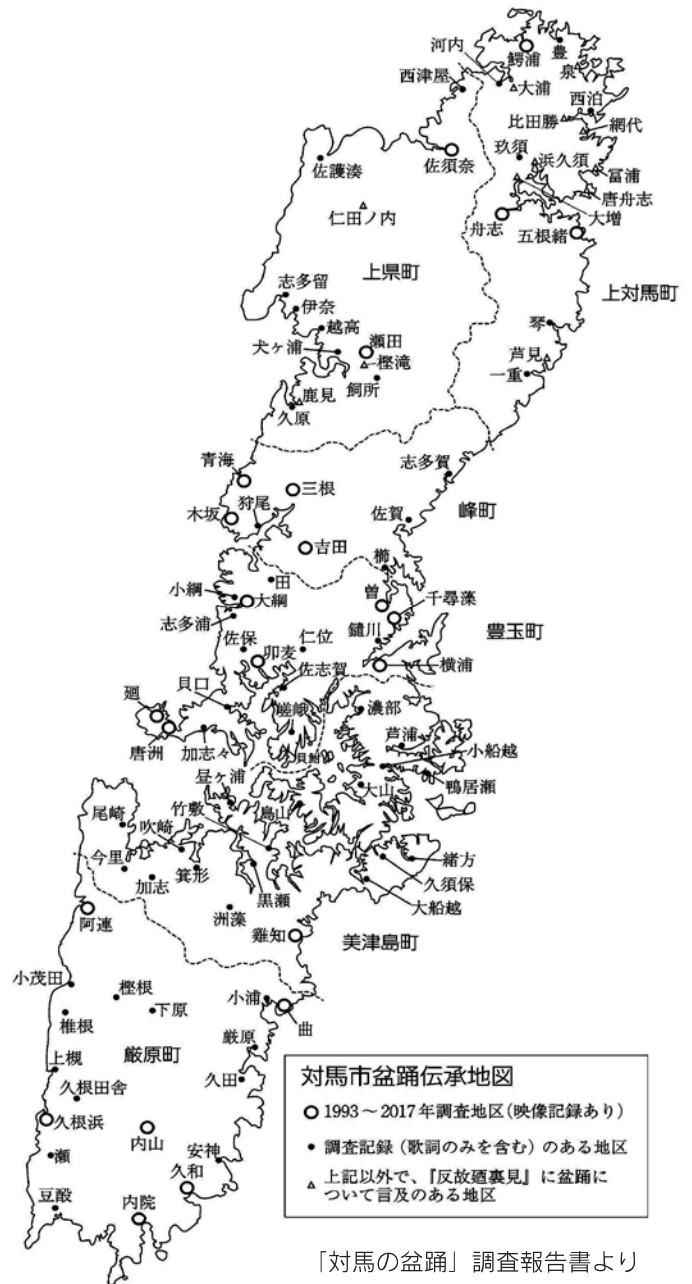
明治時代には約80地区で踊られていた盆踊ですが、昭和30年代になると「新生活運動」が全国的に広がります。これは、全国津々浦々で、食生活や衛生環境などを向上させようと始まった運動です。冠婚葬祭や地域の祭りなどに、沢山のお金や物を使わないという働きかけも行われたこの運動を契機に、人口減少や高齢化などの影響も受けた盆踊は減り続け、現在、お盆に地域で踊られているところは、市内5か所のみとなりました。

対馬の盆踊は、いろいろな地域で踊られていた内容が対馬に伝えられたのち、対馬の人たちの手によって選ばれ、伝承されてきました。そのため、元となった地域ではすでに途絶えてしまっているものも多くあり、室町時代から江戸時代末期までの多彩な風流踊について知る上でとても重要なものとなっています。次の世代に残し、引き継ぐため、対馬の盆踊は国指定重要無形民俗文化財に指定されました。(指定は「対馬盆踊保存連合会」)

ワンポイント 盆踊とは？

日本に伝わる民族芸能のうち「風流」と呼ばれる芸能の一つで、お盆に踊る風流踊を指します。

天災や疫病から人々を守るため、踊りや鉦や太鼓の音で疫神を追い出すことを目的に行われる風流踊が、先祖供養をする「盂蘭盆会」と呼ばれる仏教の行事と融合してお盆の時期に行われるようになったのが盆踊です。京都周辺で始まった踊りは、室町時代に盛んに行われはじめ、全国へと広がっていきます。踊りの輪を作って踊る盆踊は江戸時代に全国に広がったと考えられています。



「対馬の盆踊」調査報告書より

ワンポイント 国指定重要無形民俗文化財とは？

昔から守り伝えられてきた伝統芸能は、私たち国民にとって貴重な民俗文化財です。それらを次の世代に確実に引き継ぐため、民俗文化財の中でも特に重要なものを、国が指定しています。長崎県では、長崎くんちの奉納踊など7件が指定されていて、対馬の盆踊は8件目となります。

復活から30年、次の世代へ

峰町三根上里地区では、昭和30年代に途絶えた盆踊を平成に入り復活させ、現在でも踊り継いでいます。復活に立ち上がった対馬島郷土芸能保存会 会長の永留 堯吉さん、踊り手・裏方として親子で参加する永留さんご家族（寿実さん、清子さん、謙助くん）にお話を伺いました。

堯吉さん

昭和30年代「新生活運動」の広がりの中で、私の住む三根上里地区も練習などにかかる費用負担の面が新生活にふさわしくないと、取りやめになりました。

盆踊がなくなり30年ほどが経つと、今度は地域おこしが課題になってきました。島外の地区が一芸で村おこしに取り組んでいることを知り、盆踊が地域の活性化につながらないかと考えた私は、周辺の吉田と木坂地区に声をかけ、盆踊を復活させました。



寿実さん

盆踊が復活した当時は島外にいて、その後帰郷してから踊り手として関わるようになりました。父が踊りの師匠ということもあり自然な流れだったと思います。最初の頃は稽古だけでは間に合わず、家に帰っても遅くまで父から指導を受けていました。そんな姿をみて育った謙助は、3歳の頃には盆踊の一行について歩くようになりました。

謙助くん(西部中1年)

当時のことは全く覚えてないです(笑)。刀を持って踊るのがかっこよくて、自分も持ちたいと思ったのがきっかけだったと思います。練習から本番までずっと参加しているので、自然と身に付いたのだと思います。



剣を持ち踊り手を務める謙助さん(寿実さんは女役)



僕は覚えていませんが、島外に踊りに行ったときに、手伝ってもらった地区外の叔父さんに道具の持ち方がおかしいと言っていたそうです。盆踊は練習も楽しいですね。本番は緊張しますが、きちんと踊れるように練習を頑張りたいです。

清子さん

私は、衣装の着付けや化粧など裏方として盆踊に参加していますが、盆踊によって地域と深く関わることができました。子どもも地域の皆さんに可愛がっていただき、盆踊があることで地域と上手く溶け込めています。



堯吉さん

謙ちゃんはとても筋が良くて、今では、謙ちゃんの踊りを他の大人たちが見て参考にするくらいの存在になりました。また、他の地域や学校で盆踊のことを話す際には、必ずと言っていいほど、謙ちゃんの話が出てきます。すると、生徒の中にはその話をきっかけに盆踊に興味を持ってくれたり、対馬の盆踊には欠くことのできない存在です。

謙助くん

勉強や部活など、学校生活は忙しいですが、盆踊は特別な存在です。もうやめようと思ったことは一度もありません。これからもずっと続けていきたいと思っています。

堯吉さん

復活させて30年が経ち演目も増やしてきましたが、人口減少によって踊り手も少なくなってきました。上里地区では、以前豊玉高校で教えたこともあって、地区外からも踊りに来てもらって続けています。博多祇園山笠や長崎くんちなどの伝統行事も、同じように地区外からの参加を受け入れているなど、続けていく、残していくためにいろいろな取り組みを行っています。対馬の盆踊もどうやって残し、次の世代に伝えていくのか、考えなくてはいけないと思います。

様々な形で後世へとつなげる

現在、対馬の盆踊は地域で踊られるほかにも、学校や文化団体が地域の人たちから指導を受け、踊りを続けていこうという活動が行われています。

豊玉小学校では、昭和40年代まで地区で踊られていた卯麦地区の盆踊に平成8年から取り組んでいます。毎年、和多都美神社の大祭で披露するなど、地域の文化を肌で感じる学びを通じて地域文化の担い手として活動を続けています。

5年生と6年生の児童が、5月から練習をはじめ扇や杖、刀などを使った踊りを、卯麦地区の方の指導を受けて練習します。20年ほどの歴史の中で、保護者として協力していた人たちがその後も着付けで関わりを持ち続けるなど、地域とのつながりを深める場所となっています。

また、下級生が先輩たちの姿をみて、踊ってみたという憧れを抱き、次の世代へと受け継がれています。今年は、9月7日の和多都美神社大祭で奉納を予定しています。



昨年の和多都美神社大祭で踊りを披露する豊玉小児童



杖踊の練習に励む児童



島外から来て、道具を使う対馬の盆踊にびっくりしました。初めての経験ですが、練習を頑張って、みんなと息のあった踊りを見てもらいたいと思います。

豊玉小6年 松下 義明くん

昨年は教えられるだけだったけど、今年は5年生に教える立場になり大変なところもあります。下級生や地域の人たちに踊っている姿を見てもらえることが嬉しいです。

豊玉小6年 早田 楓華さん



子どもたちは飲み込みが早く、手の動かし方など、細かいところもすぐに覚えてくれて頼もしい限りです。毎年、衣装を着けて舞台上で踊る子どもたちの姿を見ると、教えて良かったなと感じます。これからも身体の動く限りはお手伝いしていきたいと思っています。

指導を行っている小嶋 博之さん

先祖供養や、地域の結束を強める場として江戸時代から行われてきた「対馬の盆踊」。現在、残されている地域を中心に、次世代につなげようと努力している人たちがいます。より多くの市民が盆踊について知り、触れることは、その人たちにとって大きな励みになります。みんなの力で、対馬の伝統を次の世代に残していきましょう。